

平成 22 年 5 月 11 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2006～2009  
 課題番号：18520118  
 研究課題名（和文） 米国大学における日本語蔵書史の調査、及びその情報の利用、共有化についての研究  
 研究課題名（英文） The Study of the History of Japanese Book Collections in The United States for the Effective use and Sharing of Information  
 研究代表者  
 和田 敦彦（Wada Atsuhiko）  
 早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授  
 研究者番号：90283225

研究成果の概要（和文）：本研究では、米国内には数多く存在する日本語図書館について、その歴史を明らかにした。蔵書の歴史情報は、その蔵書を利用、活用する場合の重要情報であるが、これまで系統的な研究は存在しなかった。本研究は、それら歴史を明らかにするとともに、その歴史に関係する文献、文書を、米国内の各地図書館で収集するとともに、それらの整理、保存、公開につとめた。また、こうした研究、調査の重要性について認知度を高めた。

研究成果の概要（英文）：In this study, I clarified the histories of major Japanese book collections in The United States. Although the information about the collection histories is useful for various fields of research, there have been few academic studies about this issue. I generally clarified the collection histories and I systematically gathered various documents concerning the histories. Furthermore, I ordered and preserved these documents, and made them to the public. I enhanced the value of the study about the histories of collections, international distributions, and the circumstances of Japanese books abroad.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,000,000	0	1,000,000
2007 年度	900,000	270,000	1,170,000
2008 年度	600,000	180,000	780,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,200,000	660,000	3,860,000

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：蔵書史、読書論、出版、リテラシー、日米関係

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の目的は、米国内の日本語蔵書の歴史を通史的に解明するとともに、その根拠資料、文献類を広く収集、整理することにある。本研究の開始当初において、これら情報についてのまとまった研究はわずかであり、各地

の蔵書史や部分的な記録類が散在している状況だった。初期の米国内の日本語蔵書の構築にたずさわった世代も高齢化しており、これら歴史情報について収集、保存しておくことが急務であった。また、こうした蔵書の歴史情報の意味や重要性がより広く認知され

るためには、外国の日本語蔵書史を通して、様々な研究分野に有効な情報が提供されることを具体的に示す必要があった。そのためにも、米国内の日本語蔵書の歴史を実証的、通史的に描き出し、研究として公にすることで、その情報を広く公開する必要があった。

本研究の研究代表者は、2005年3月より、米コロンビア大学に客員研究員として籍をおき、米国内の各大学図書館の情報環境と資料提供の現状の調査を行ってきた。それとともに、各大学の日本語蔵書の形成、変化に関連する大学の文書資料（図書館の各部署の各種報告書、寄贈や購入にかかわる手紙類、司書のオラルヒストリーデータ等）を収集し、各大学の司書、アーキビストの協力を得て、現在までに17大学を調査、のべ3000点近い同資料を収集し得た。この調査は2006年1月まで継続し、豊かな日本語蔵書を有する主要20大学（米議会図書館を含む）において調査を行っていた。

## 2. 研究の目的

研究の目的は、米国における日本語蔵書について、それがいつ、どのように形成され、変遷してきたのか、その全体像を把握することである。しかし、それを単なる歴史調査とするのではなく、それら蔵書形成の歴史についての情報を文学、歴史学、社会学等さまざまな分野の調査に利用できるような有用な基礎データとして提供することをも目的とする。さらに、そうした歴史的な蔵書形成の文脈の中で、文学関連図書館の果たしてきた役割をも明らかにしてゆく。

この調査はどの大学にどのような文献があるか、といった所在情報よりも、それがいつ、なぜ、どのようにしてその大学にたどりついたのか、についての調査に重点をおく。主として日本語文献が大量に米国に流入する1946年以降に焦点をあてるが、同時に各大学蔵書の最初の核となった蔵書についても時代をさかのぼって調査対象とする。これまでの海外日本語文献についての調査は、主としてその文献自体についての研究や調査、あるいは個々の大学の所蔵情報についての調査に焦点がおかれてきた。しかしながら、それらがなぜ各大学の蔵書となったのか、その経緯や経路についてはいまだ十分な調査がなされていない。また、そうした情報の基礎となる資料がどこに、どの程度あるのかについても把握されておらず、これら情報の調査、整理、公開が必要である。

## 3. 研究の方法

研究の目的は、米国における日本語蔵書について、それがいつ、どのように形成され、変遷してきたのか、その全体像を把握することである。しかし、それを単なる歴史調査とす

るのではなく、それら蔵書形成の歴史についての情報を文学、歴史学、社会学等さまざまな分野の調査に利用できるような有用な基礎データとして提供することをも目的とする。さらに、そうした歴史的な蔵書形成の文脈の中で、文学関連図書館の果たしてきた役割をも明らかにしてゆく。

この調査はどの大学にどのような文献があるか、といった所在情報よりも、それがいつ、なぜ、どのようにしてその大学にたどりついたのか、についての調査に重点をおく。主として日本語文献が大量に米国に流入する1946年以降に焦点をあてるが、同時に各大学蔵書の最初の核となった蔵書についても時代をさかのぼって調査対象とする。これまでの海外日本語文献についての調査は、主としてその文献自体についての研究や調査、あるいは個々の大学の所蔵情報についての調査に焦点がおかれてきた。しかしながら、それらがなぜ各大学の蔵書となったのか、その経緯や経路についてはいまだ十分な調査がなされていない。また、そうした情報の基礎となる資料がどこに、どの程度あるのかについても把握されておらず、これら情報の調査、整理、公開が必要である。

本研究は、これら資料をもととして、以下の三つの具体的な作業を計画している。

(1) 各大学日本語蔵書の形成史についての基礎資料目録の作成、公開

それぞれの大学の日本語蔵書の起源、形成、変遷にかかわる資料が、どこに、どのような形で、どれだけ存在するかについての情報を目録化し、日米双方の研究機関に有用な形で公開する。

(2) 各大学の日本語蔵書形成、変容についての分析

それぞれの大学の日本語蔵書が、どのように形成され、変容してきたのかについてのより具体的な分析を行う。収集した米国側の資料に加え、これら日本語蔵書を提供した日本国内の大学図書館や研究機関、及び民間の取次業者に関する調査を行い、日米間の戦後の書物流通の実態を明らかにする。その過程で、文学領域の書物が近代に果たした多様や歴史的役割を明確にしてゆく。これらについての報告書を作成、配布する。

(3) 各大学の蔵書形成にかかわる基礎資料自体の公開

各大学の蔵書形成の歴史、及び米国内、日米間の蔵書同士の関係史について重要な意味をもつ資料類をデジタル化し、公開するとともに、主要データの翻訳、解説を日英両語で利用可能な形で提供する。

以上の作業と平行し、米国における関連資料の追加調査、米国各大学との連絡、調整、情報の交換、提供を行い、また成果報告を適宜行ってゆく。

#### 4. 研究成果

本研究の目標は、米国大学図書館におけるそれぞれの日本語蔵書が、いつ、いかにして形成され、どのように変化してきたのか、という情報の詳細なデータを提供、公開することにある。そしてその情報の提供とあわせて、文学領域の書物の果たした役割をも明確にしてゆくことをねらいとする。基本的にはまず、これらの蔵書の形成史にかかわる情報を収集、整理、公開し、他領域にわたって有用な情報を提供するプロセスが必要となる。この成果について、以下、順に述べたい。

##### (1) 蔵書史資料の所在情報について

各大学図書館の日本語蔵書がどのように形成されたか、について明らかにするために必要な資料は多岐にわたる。そして、多くの場合、それらは公刊された資料ではない。これらは、各大学の日本語図書コレクションの歴史について言及した論文、新聞記事、図書の購入、寄贈、交換等に関する大学図書館文書、日本語図書管理担当者（退職者を含む）からの聞き取り資料等の多様な資料を含む。研究準備期間から、本研究期間内において、研究代表者はこれら資料類を米国内で10万冊以上の規模をもつ日本語図書館を中心に訪問調査、資料収集を行った。研究機関内においては、米国議会図書館、コロンビア大学、スタンフォード大学、ミシガン大学、カリフォルニア大学バークレイ校、同ロサンゼルス校、コロラド大学、ハーバード大学、エール大学での収集を行った。

また、調査する過程で、北米における米国日本語蔵書の形成をとらえる必要から、関連してカナダのプリティッシュコロンビア大学の日本語蔵書史の調査を行ったほか、日本語図書の日米間取引に大きな役割を果たしてきたタトル出版等の調査も行い、関係資料を撮影した。研究期間中に撮影、収集した資料は総計で2万枚を越え、現在も継続して整理、目録化を行っており、今後も蓄積、公開を進めていく。

##### (2) 資料内容についての分析、報告

(1)が主として文献情報の整理、提供プロセスであるのに対して、それら文献の内容について調査、分析し、まとめる作業が当然必要となる。これについては、まず米国各地大学の蔵書史について、これまで収集、整理してきた資料を分析し、著書『書物の日米関係』として刊行した。これによって、米国の戦前、戦後の日本語蔵書構築の全体像を歴史的に把握することが可能となった。また、これまで部分的であった各地の蔵書史同士を互いに結びつけ、それらの関係を明らかにした。ここでは、単に蔵書の変化をたどるばかりではなく、日本語蔵書構築やその変化が、

日米間の政治、経済的な要因と深く関係しあっていることを示すとともに、国際間の学術、文化交流が発展してくる上で極めて役割を果たしてきたことを明確にした。

同書の刊行後、さらに米国議会図書館やメリーランド大学ブランゲコレクション等、個別の蔵書史についての追加調査報告や、蔵書史資料の側からの同コレクションの支援、研究協力を行い、研究報告や論文として刊行した。海外の日本語蔵書は単独で成立、機能するのではなく、海外の蔵書相互の関係の中で形成、利用されている。それぞれの蔵書の可能性や役割、担うべき機能をとらえるには、海外の日本語蔵書の全体的な変化、歴史をふまえておくことが必須である。蔵書史研究を通して、こうした具体的な各図書館の支援が可能となった。

##### (3) 海外日本語蔵書史の研究の普及

海外日本語蔵書史、書籍の交流史という研究領域は、まだ資料的にも方法的にも十分整備されていない領域といえる。しかしながら、その情報が歴史学、文学学、図書館学等、過去の文献資料を対象とする多くの学問領域にとって不可欠な情報を提供することが可能な領域である。したがって、この研究方法やその成果について、国内外で情報発信につとめ、研究のレベルアップにつとめ、関係する研究者の関心を高めていく必要がある。

そのため、成果について論文や研究報告、著書等を通して、こうした研究方法自体の役割や意味について、積極的に発信するようつとめてきた。図書館学、歴史学、文学、経済学、教育学等、幅広い分野での活用可能性について、関係学会での報告を行ってきた。

また、こうした文献の所蔵、流通についての問題意識を高め、関心を共有する研究者と協力し合う場を構築するために、研究会、研究会誌を発行した。これらの研究を総合的に「リテラシー史研究」と総称し、より広い関心のもとでの研究活動として発展させてきた。ここでは、これまでの日米間の書籍流通、所蔵の問題ばかりではなく、国内を含め、蔵書や読書の歴史に関する幅広い関心のもと、研究者の育成や関係情報の発信を行った。

##### (4) 関係資料の保存と収集協力体制の確立

海外に日本語蔵書の形成や変化については、日々海外においてデータが作成されている。こうした資料を継続的に収集、整理していくためには、海外の各図書館との連携が不可欠である。本研究代表者は、こうした研究協力体制作りを各地大学と進めてきた。特に、蔵書史情報を保存、収集する重要性、意味について、アトランタで行われた北米日本研究資料調整協議会で報告し、その協力を呼びかけた。こうした機会を通して、現在でも多く

の米国内日本語図書館と情報交換を行うことのできる体制を作り上げた。また、蔵書史関係の資料の相談や協力にも適宜応じてきた。

特にコロンビア大学、コロラド大学においては、日本語蔵書や日本学にかかわる資料保存活動に協力し、現在も継続している。コロンビア大学の日本語蔵書構築に尽力した角田柳作の関係する調査、展示の協力や、コロラド大学の戦時時期日本語学校アーカイブズの人物データベース作成にもその一環で協力してきた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

和田敦彦、グーグルと書物文化、昭和文学研究、査読有 60号 2009、132-134

和田敦彦、早稲田大学所蔵田口卯吉関係資料目録 アーカイブズ教育の一環として、学術研究 国語・国文学編、査読無、58号、2009、11-34

和田敦彦、日米関係史の中の図書館、環、査読無、15号、2008、204-209

和田敦彦、プランゲ文庫をめぐるアメリカ図書館の争奪戦、インテリジェンス、査読無、10巻、2008、4-11

和田敦彦、リテラシーの歴史を考えるには、日本近代文学、査読有、78号、2008、304-310

和田敦彦、植民地の「舞踏会」 戦時期の芥川翻訳プロジェクトに関して、国文学、53巻3号、2008、116-124

和田敦彦、発信される日本 KBS 文書のリテラシー史的意味、リテラシー史研究、査読無、1号、2008、33-46

和田敦彦、流通・所蔵情報をとらえる文学研究へ 米議会図書館所蔵の占領期被接收文献について、日本文学、査読有、57巻1号、2008、56-67

[学会発表](計9件)

和田敦彦、グーグル・ブックス図書館プロジェクトの現場から 第11回図書館総合フォーラム、2009年11月11日、パシフィコ横浜

和田敦彦、リテラシー史料の保存・調査を生かす教育・研究プログラム、改造社を中心とする20世紀日本のジャーナリズムと知的言説をめぐる総合的研究 第10回研究集会、2009年2月11日、慶応義塾大学

和田敦彦、書物という架け橋 角田柳作と早稲田大学図書館、第10回図書館総合展、2008年11月26日、パシフィコ横浜

和田敦彦、明治期書店史料へのアプローチ 高美書店のケースから、日本出版学会歴史部会、2008年10月3日、日本エディタースクール

和田敦彦、アメリカの日本語蔵書史から見えるもの 日本の書物をめぐる人・組織・制度、経済資料協議会、2008年6月3日、早稲田大学

和田敦彦 Understanding the Histories of Book Collections: Its Method, Significance, and Potential The North American Coordinating Council on Japanese Library Resources、2008年4月3日、Atlanta

和田敦彦、プランゲ文庫をめぐるアメリカ図書館の争奪戦 占領期資料の戦略的価値、20世紀メディア研究所 シンポジウム：戦争と文化財、情報の略奪、2007年7月26日、早稲田大学

和田敦彦、書物の日米関係 海を渡った日本の書物、日本大学学術フロンティア推進事業 アーカイブズ、その展望と歴史、2007年7月15日、日本大学

和田敦彦 Acquiring Books from Occupied Japan; Examining Collection Building of North American Libraries, 1945-1952、Society for the History, Reading and Publishing、2006年7月21日、Hague

[図書](計4件)

和田敦彦、編集、リテラシー史研究会、リテラシー史研究、3号、2009、98頁

和田敦彦、編集、リテラシー史研究会、リテラシー史研究、2号、2008、118頁

和田敦彦、編集、リテラシー史研究会、リテラシー史研究、1号、2007、89頁

和田敦彦、書物の日米関係 リテラシー史に向けて、新曜社 2007、406頁

[その他]

研究関連ホームページ

<http://www.f.waseda.jp/a-wada/jbcp/index.html>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

和田 敦彦 (Wada Atsuhiko)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授  
研究者番号：90283225